

今回の海外研修では、インターンシップとして現地のキューピーとイオンの営業についてオンラインで説明を聞き、授業では中国語の文法と文化について学ぶ授業と会話の授業を行った。

インターンシップでは各日本企業の現地での営業方法について学んだ。同じ商品でも販売食品の味も日本とは異なるほか、蟹の大売りのような日本ではあまり見られないものを売っているなど、販売対象である現地の人々が求めるものを研究して来たことがわかった。

授業では、中国語における様々なスキルを上達させることができたと感じる。WeChatを使ったクラスのチャットでは北京外大の先生方のチャットから中国のネットスラングを知ることができた。また授業は常に中国語で、約4時間日本語を聞くことがない環境におかれていた。最初は全く聞き取れなかったことが多かったが、研修後半になると先生が言っていることがわかるようになってきた。また、全ての単語を聞きとろうとするのではなく、聞き取れた単語を組み合わせ先生の言いたいことを理解するといった工夫もするようになった。そして、聞き取ることに集中することで集中力も身についたと感じる。

この研修の中でもっとも力がついたのは会話のスキルである。大学院生との会話の授業では、最初は緊張や不安から怖がって自分から伝えるということができず、相手の話に相槌をうっただけであったが、次第に自分の意見を伝えて相手に理解してもらえるようになった。それ以外にも互いの国で最近はやっていることなどを教えあい、隣の国でもかなり文化が違うことを発見した。

この研修後の中国語の授業では、自分でも実感できるほど中国語話者の先生の言っていることが理解でき、発言も積極的になったと感じる。

今回の研修では私が海外の人と話すことが好きだということがわかったため、進路も海外と交流のある職業を目指したいと思う。